アンケート対応作業メモ

凡例 二重線：削除 強調，下線：追加

通し番号　157 ＨＰ番号　42 第4章　　平面交差点の交通容量 4.2.1 影響要因 ・道路要因の交差点形状及び周辺要因の地域特性（都市部・地方部）と駐停車、バス停留所等を考慮できる補正値の確立が望まれる ＜対応方針：バス停留所については，「交通信号の手引き」に記載されている事項を抜粋して，<u>4.2.7項を新設</u>する．駐停車，都市部、地方部については対応を見送る＞
○作業の進捗状況 　新規提案

（記述案）

4.2.5　右折専用車線と直進・右折混用車線

(1)　右折専用現示のある場合の右折専用車線

4.2　飽和交通流率の影響要因とその補正

4.2.1　影響要因

（中略）

本書では，表 4-4-2 の影響要因のうち道路要因~~と~~，交通要因**，および周辺要因のうちのバス停留所に**ついての補正値を以下に示す．**他の**周辺要因については補正値を示していないが，その影響が無視できるということではなく，この種の調査研究が少なく，場合によって大きく異なるので一般的な値を示すことができないためである．ただ，新設交差点の計画，設計にあたっては，周辺条件を整えて飽和交通流率に影響を与える要因をとり除くよう考慮すべきである．

（中略）

4.2.7　バス停留所による補正（新設）

対象交差点の流入路にバス停留所があると，バス以外の車両の通行が阻害されないようにバスベイ等が設置されている場合を除き，流入路の外側車線の飽和交通流率が低下する．バス停留所で停車しているバスのために，後続車両はバスが発車するまで待つか，車線変更しなければならないためである．このような場合の飽和交通流率の低下は，バス停の停止線からの距離，バスの運行頻度，バスのバス停留所での停車時間に依存する．

表 3.4.8 に，流入部に設置されたバス停の停止線からの距離とバス運行頻度による最外側車線に対する補正係数の計算例[参考文献]**を示す．なお，詳細については「交通信号の手引き」（交通工学研究会編）の補足３を参照のこと．**

バス停の停止線からの距離	バス運行頻度[台/時]										
	0	10	20	30	40	50	60	70	89	90	100
10m	1.00	0.90	0.79	0.59	0.48	0.44	0.41	0.40	0.38	0.37	0.36
30	1.00	0.90	0.81	0.64	0.55	0.52	0.49	0.48	0.46	0.45	0.44
50	1.00	0.90	0.83	0.77	0.74	0.70	0.66	0.63	0.59	0.57	0.54
70	1.00	0.92	0.87	0.85	0.83	0.81	0.78	0.76	0.74	0.72	0.70

参考文献

斎藤　威：　各種交通条件が信号交差点の交通容量に及ぼす影響，科学警察研究所報告交通編，21 巻，1 号，1980.